



# 新宿山吹だより

都立新宿山吹高等学校通信  
令和7年度第3号  
【令和7年6月2日】

新宿山吹だよりは、保護者の皆さんにも読んでもらって下さい。

## 時の流れ

校長 永浜 裕之

時は等しく過ぎてゆきます。なのに、若いうちは時の移り変わりを遅く感じ、年を取ると早く感じるのは何故でしょうか？

よく聞く理由の一つとして、「生きてきた年数の違いによる説」があります。

10歳の人にとって1年は人生の1/10に相当しますが、50歳の人にとって1年は人生の1/50にすぎないというわけです。

哲学者の中村雄二郎氏は、「心持ちの違い」を指摘します。

若い人は「未来に生きている」と中村氏は言います。

「未来に生きるとは待つことであり、待つとき、時間は引き延ばされるのである」(随筆「時間の不思議」、中村 雄二郎)。

「待つとき、人は時間を長く感じる」ことは、多くの方が共感できることではないでしょうか。

寒い冬と暑い夏が長く感じられるのも、春と秋を待ち焦がれるせいかもしれません。

チャイムが鳴らず、自己管理を行っている新宿山吹生の皆さんは、日々、時刻を気にしていることでしょうか。

さて、ふと息を大きく吸ってみましょう。歴史のかなたには、緩急や濃淡に富む、ゆったりとした時間が広がっています。

飛鳥時代に生きた人々は、時に追われて日々、暮らしていたのでしょうか？

私は、奈良県の橿原(かしはら)市、明日香村が好きで、機会を見つけては訪れます。京都駅から近鉄特急で約1時間。

この地は、飛鳥と呼ばれる地域で、西暦592年に始まった飛鳥時代から、日本の政治・文化の中心として、何れ所かに都が置かれた古都です。710年に、平城京に本格的な都が造営され、飛鳥時代から奈良時代へと時代の呼び名が変わるまで日本の中心であった場所で、非常に感じるものが多い地です。

明日香村の「水落遺跡」は、中大兄皇子(なかのおおえのみこ)が660年、水時計「漏刻(ろうこく)」を設けたとされる地です。眼前に甘檜丘(あまかしのおか)が見え、田畑が周りに広がります。飛鳥は「石の都」で、広場は石が敷かれ、池は石で護岸されていました。奈良歴史文化財研究所飛鳥資料館には、「漏刻」の復元模型が展示されています。箱が階段状に5つ重なり、水が銅管を通して下の箱へ流れます。段を重ねて水の流れる速さを一定に保ち、一番下の箱で時刻を刻んだ竿が上昇します。「漏刻」という大陸由来の先端技術で時を区切り、鐘や太鼓で時を知らせることにより、天皇が時空間をも支配することを示したとされています。

奈良時代は平城京に「漏刻」が設けられ、1日を12等分して十二支で呼びましたが、地方で出土する時刻を記した木簡に書かれた時刻は、日の出の「卯(う)」と、日の入りの「酉(とり)」が多く、生活の基本は日の出と日の入りで、**時間に追われることなく、自然に寄り添った時間の扱いだった**ことがうかがえます。

書物等から、私たち日本人の時間感覚の変遷をたどってみます。

### 鎌倉時代

「祇園精舎の鐘の声、諸行無常の響きあり」 平家物語

「ゆく河の流れは絶えずして、しかももとの水にあらず」 (方丈記、鴨 長明)

### 戦国時代

「夜は午後8時頃までに寝て、早起きして6時までには出勤すること」 北条早雲家訓 (早雲寺殿廿(じゅう)一箇条)

「人間五十年、下天の内をくらぶれば、夢幻の如く(ごとく)なり」 (信長公記、織田 信長)

### 江戸時代

「月日は百代の過客にして、行かふ年も又旅人也」 (おくのほそ道、松尾 芭蕉)

### 明治時代

「日本人は**時間についての観念がきわめて乏しかった**。(途中省略) 明治末までは村の中に時計のある家は数えるほどしかなくて」(日本人の時間観念、宮本 常一)

「私の日本人の助手達は、何でもよろこんでますが、**時間の価値をまるで知らぬ**。これは東洋風なのだろうと思うが、それにしてもじりじりして来る。」(日本その日その日、エドワード・モース)

「現代の日本ほど**時間の早く経過する国**が世界中にあらうか」(銀座界限、永井 荷風)

### 大正時代

「彼は**時間に対して頗る(すこぶる)正確な男**であった」(道草、夏目 漱石)

## 「新たな教育のスタイル」通信制課程

資格取得、検定合格、各種コンクールへの出場、あるいは自分の好きに向かって進む

通信制課程副校長 松木富美代

通信制課程では、令和7年5月、「DXコース」、「グローバル人材育成コース」、「探究コース」の3つのコースを開設しました。通信制課程の生徒は講座を自由に受講できます。スケジュールは校内掲示等をご確認ください。「受講する・しない」は自由で、複数講座の受講も可能です。講座を受講し、条件を満たせば単位修得も可能です。

9月からは、東京都教育委員会による「検定スキル習得を目指す生徒への支援」として、対面参加、オンライン参加、オンデマンド受講により、「ITパスポート試験」、「基本情報技術者試験」、「情報セキュリティマネジメント試験」、「MOS 検定エキスパート」、「Web 検定 Web デザイナー」、「Web 検定 Web リテラシー」講座を開講予定です。

「TOEIC Listening & Reading Test」、「TOEIC Speaking & Writing Test」はオンデマンドのみで開講予定です。

定時制課程の生徒の皆さんも、授業が重ならないなど、条件を満たせば受講できる講座があります。詳細は、6月末に Teams でお知らせします。

### 「新たな教育のスタイル」 全体リーダー 中村 祥太

コース名	コースリーダー	部門名	担当者
探究コース	◎ 中村	探究	中村、鈴木
DXコース	◎ 喜岡	デジタルイラスト	新村、毛利
		プログラミング習得	染谷、毛利
		ITパスポート取得対策	阿川、中村
		DX建築	喜岡、池田
		情報学研究コンテスト	新村、毛利
		PC甲子園トレーニング	中村、染谷
グローバル人材育成コース	◎ 阿川	英検対策	鈴木、篠原
		異文化理解（フランス語）	新村、矢野

### 各講座の様子



### 探究コース 中村祥太

探究コース（探究部門）は10名でスタートしました。他の部門と違い明確に決まっている目標はないのですが、逆にそれをいかして、それぞれの興味関心に基づいた課題研究に取り組み、山吹祭でポスター発表することを目指します。その過程で、同じコースのメンバーから質問やアドバイスを受けながら、発表についてブラッシュアップしていく予定です。平日の時間のゆとりがある通信制課程の強みをいかして、研究に取り組み、進路活動などにつなげていってほしいです。

### DXコース 喜岡翔太

DXコースは全6部門で、デジタルイラスト講座とプログラミング習得講座では日本電子専門学校の講師の先生方の指導の下、生徒は各々「ポスター制作」と「アプリ開発」を学び、最終目標としてPC甲子園出場を見据えています。PC甲子園と併せて情報学研究コンテストにおいても、ポスター発表やアプリによるデータ解析等が必要とされており、上記の2講座との親和性が高いため、探究コースと連携しつつ、情報学研究コンテストへの出場も目指していきます。ITパスポート取得対策講座ではITパスポート取得を目指しており、かつ資格取得が情報Iの単位の増加単位として認定されることとなります。DX建築講座では秋田県立大学の全国高校生建築提案コンテストへの出場を目指します。

### グローバル人材育成コース 阿川浩美

英検対策講座（27名）と異文化理解（フランス語）講座（20名）を年間を通じて開講しています。生徒からの要望も高かった英検対策講座は英語科が平日に開講し、2級までの合格を目指す生徒の指導をしています。また、フランス語講師（東京都「部活動等への外国語講師派遣制度」活用）は、とても気さくで多才な方で、生徒たちは言語、音楽、絵本、料理等、様々なジャンルからフランス文化を体験的に学ぶことができます。これら2つの講座を通して、生徒たちが異文化理解を深め、今後の人生に生かしていくことを心から願っています。

### 定時制課程 学校行事予定

6月4日（水）～10日（火） 前期中間考査  
 9日（月）～27日（金） 教育実習  
 11日（水）～17日（火） 体力テスト  
 12日（木） 自己探索学習②  
 17日（火） 保護者オープンデイ 14:00～16:00  
 修学旅行前健診（昼休み・夕休み）  
 19日（木） 修学旅行前健診（昼休み・夕休み）  
 20日（金） 上級学校授業体験

### 通信制課程 学校行事予定

6月5日（木） 校内レクレーション  
 7日（土） スクーリング  
 14日（土） スクーリング 卒業生と在校生の交流会  
 19日（木） 東京ジャーミー見学会  
 20日（金） 国立西洋美術館見学  
 21日（土） スクーリング  
 28日（土） スクーリング